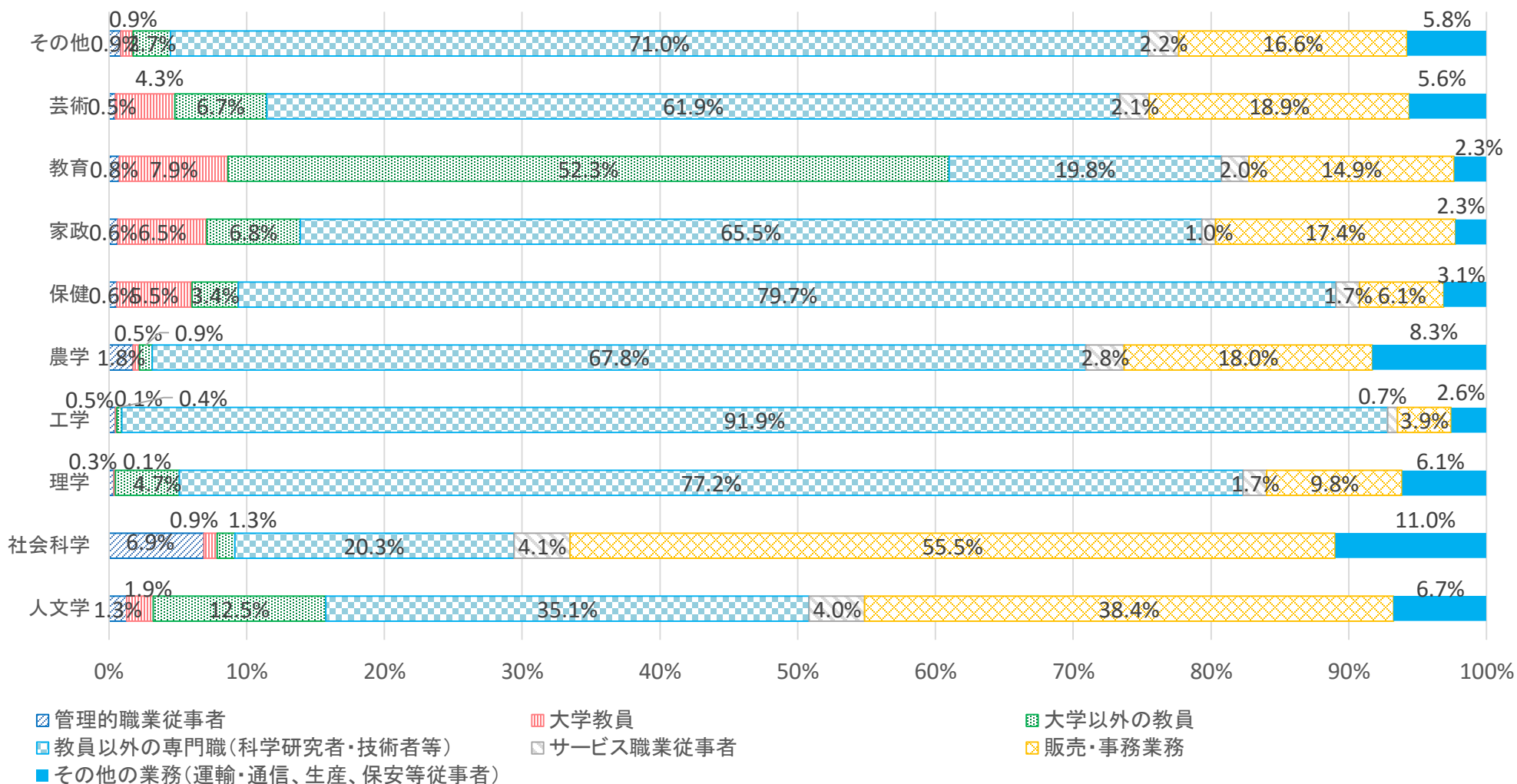


## (6) 博士後期課程修了者の進路の 確保とキャリアパスの多様化

# ①大学院修了者の就職状況

## 修士課程修了後の就職先(分野別・職業別)

- 理工農、保健分野においては修士課程修了後、技術者等として専門的職業に従事する者の割合が高く、人社系分野においては販売・事務業務に従事する者の割合が高い。

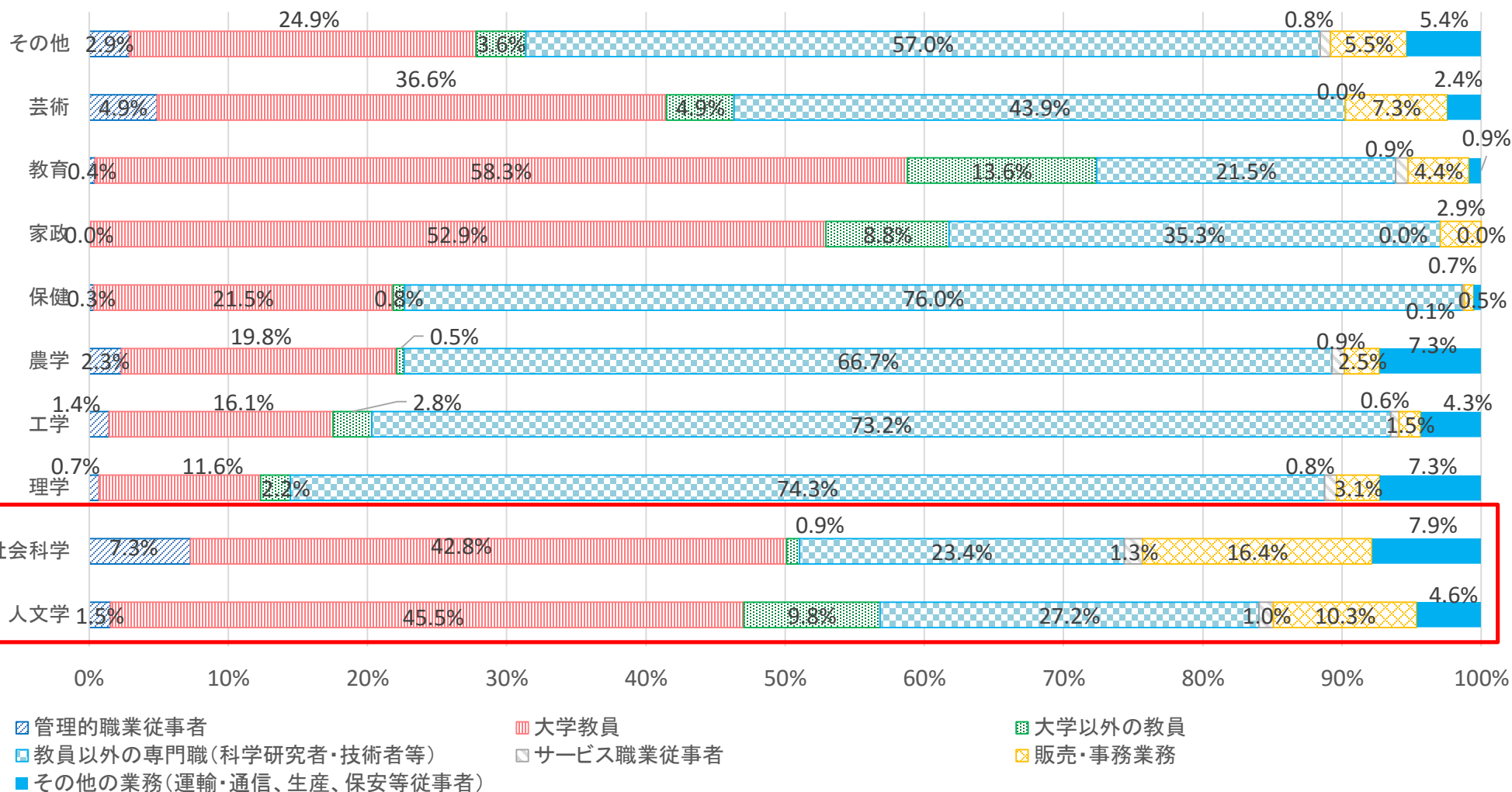


※ 所定の単位を取得し、学位を取得せず退学した者(いわゆる満期退学者)の数を含む

出典:平成30年度学校基本統計

# 博士課程修了後の就職先(分野別・職業別)

- 理工農・保健分野においては博士課程修了後、大学教員以外の専門的職業に従事する者の割合が高く、人社系分野においては大学以外も含めて教員になる者の割合が高い。

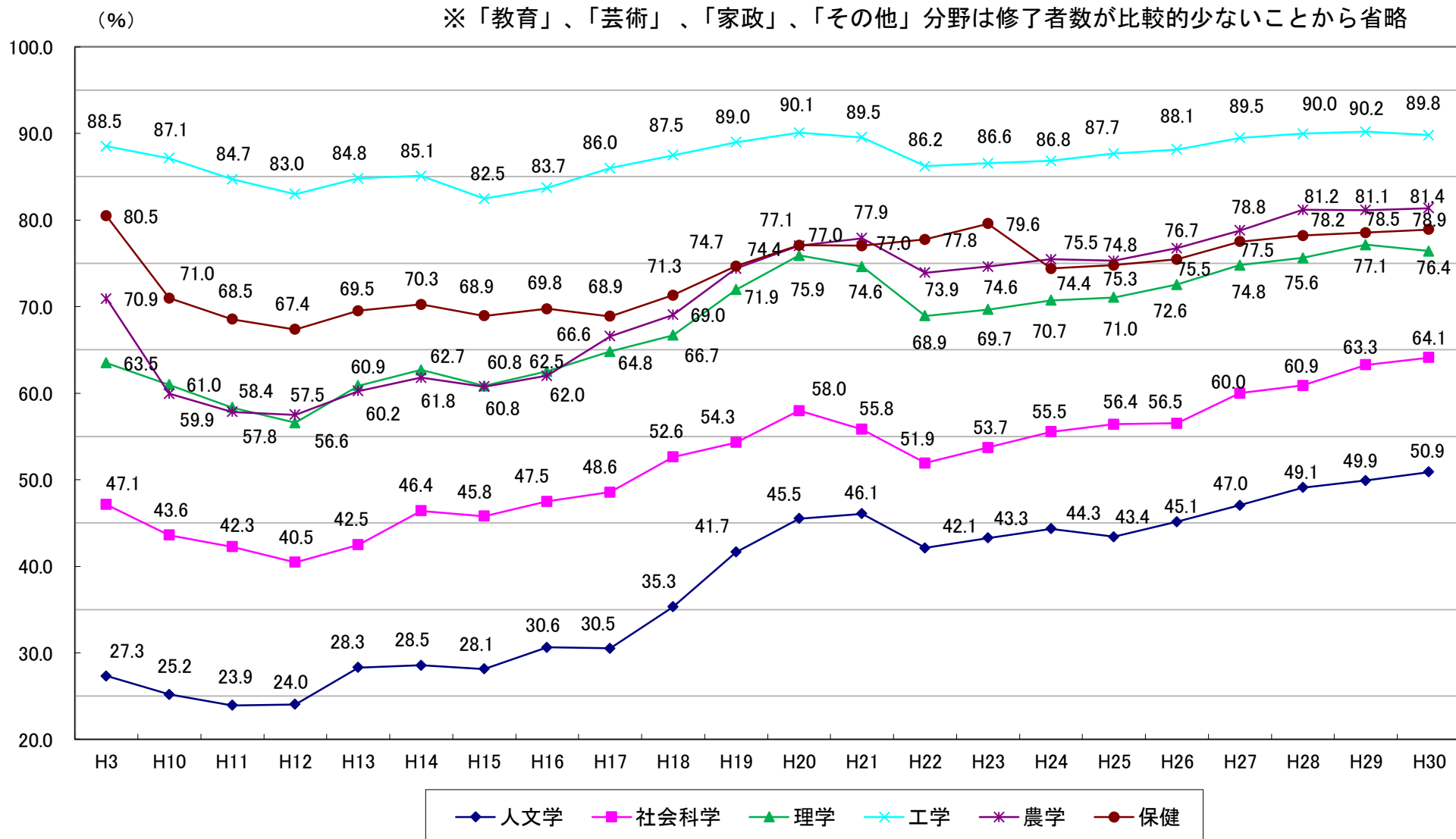


※ 所定の単位を取得し、学位を取得せず退学した者(いわゆる満期退学者)の数を含む

出典:平成30年度学校基本統計

# 修士課程修了者の就職率の推移(分野別)

● 修士課程修了者の就職率は、過去は上昇傾向にあったが、近年はほぼ横ばい。

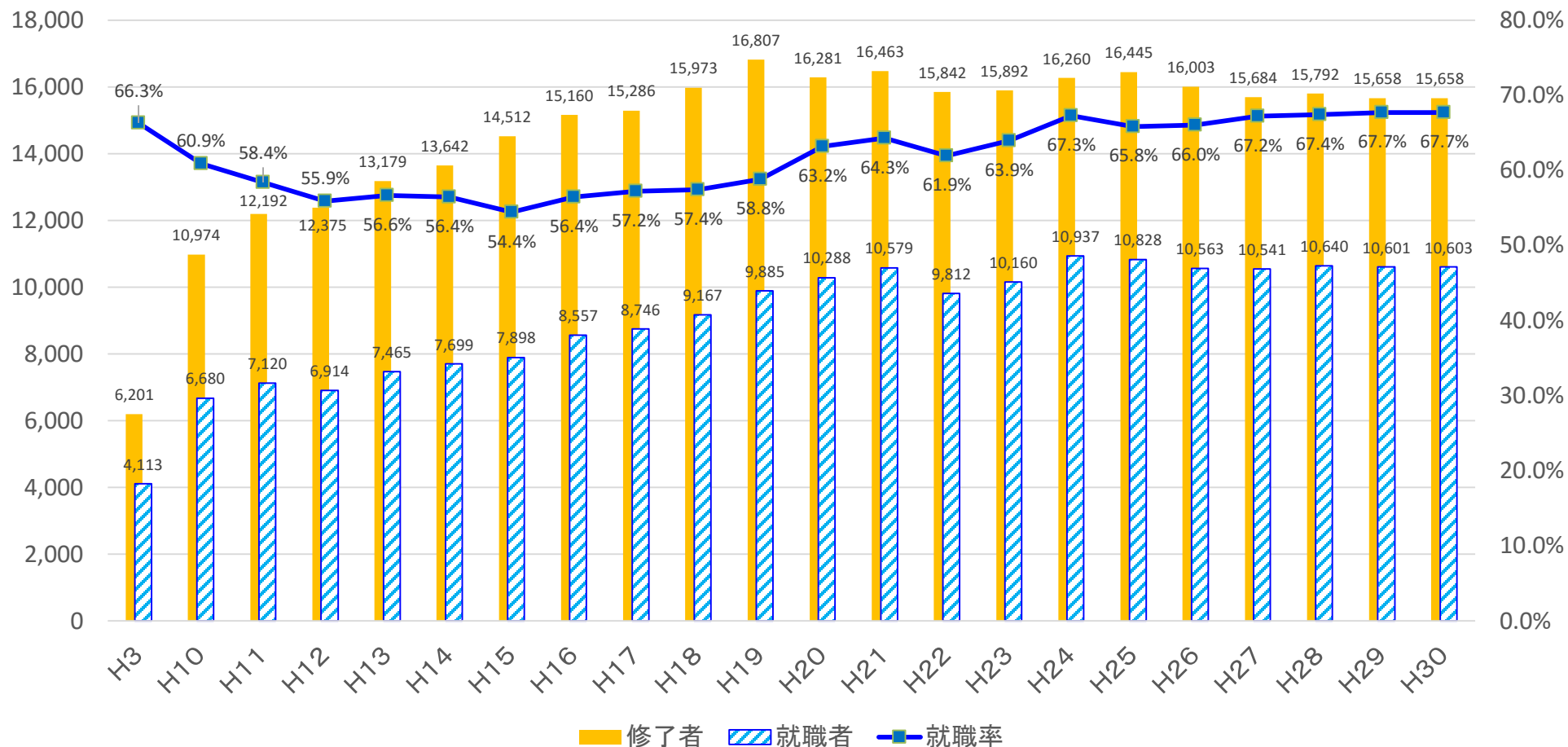


※各年度は 修了年度。

出典:学校基本統計

# 博士課程修了者数及び就職者数の推移(全体)

● 博士修了者就職率は平成30年度で3分の2程度。



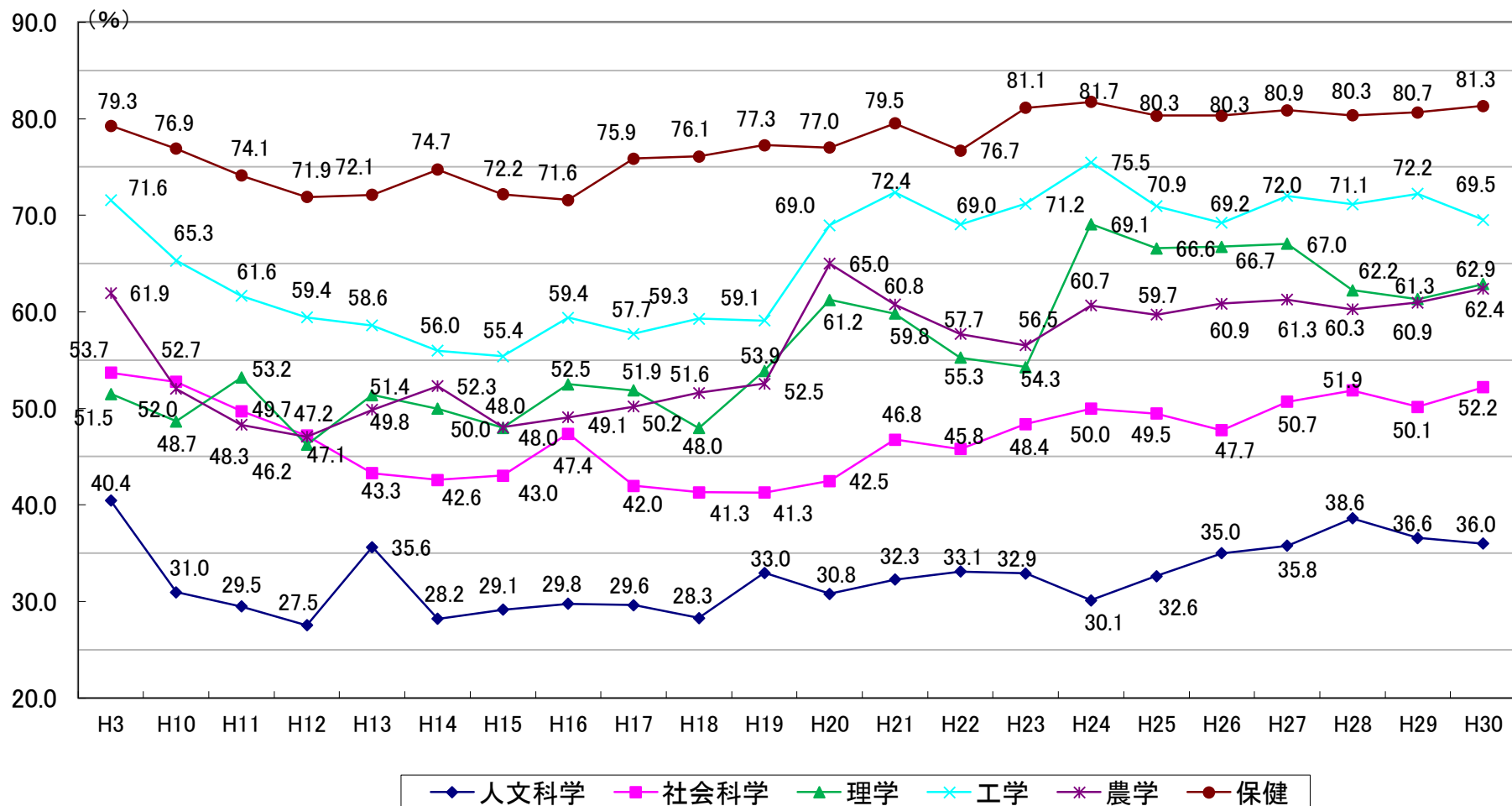
(注)・博士課程修了者には、所定の単位を修得し、学位を取得せずに満期退学した者を含む  
 ・就職者とは、給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いた者をいう

出典：学校基本統計

# 博士課程修了者の就職率の推移(分野別)

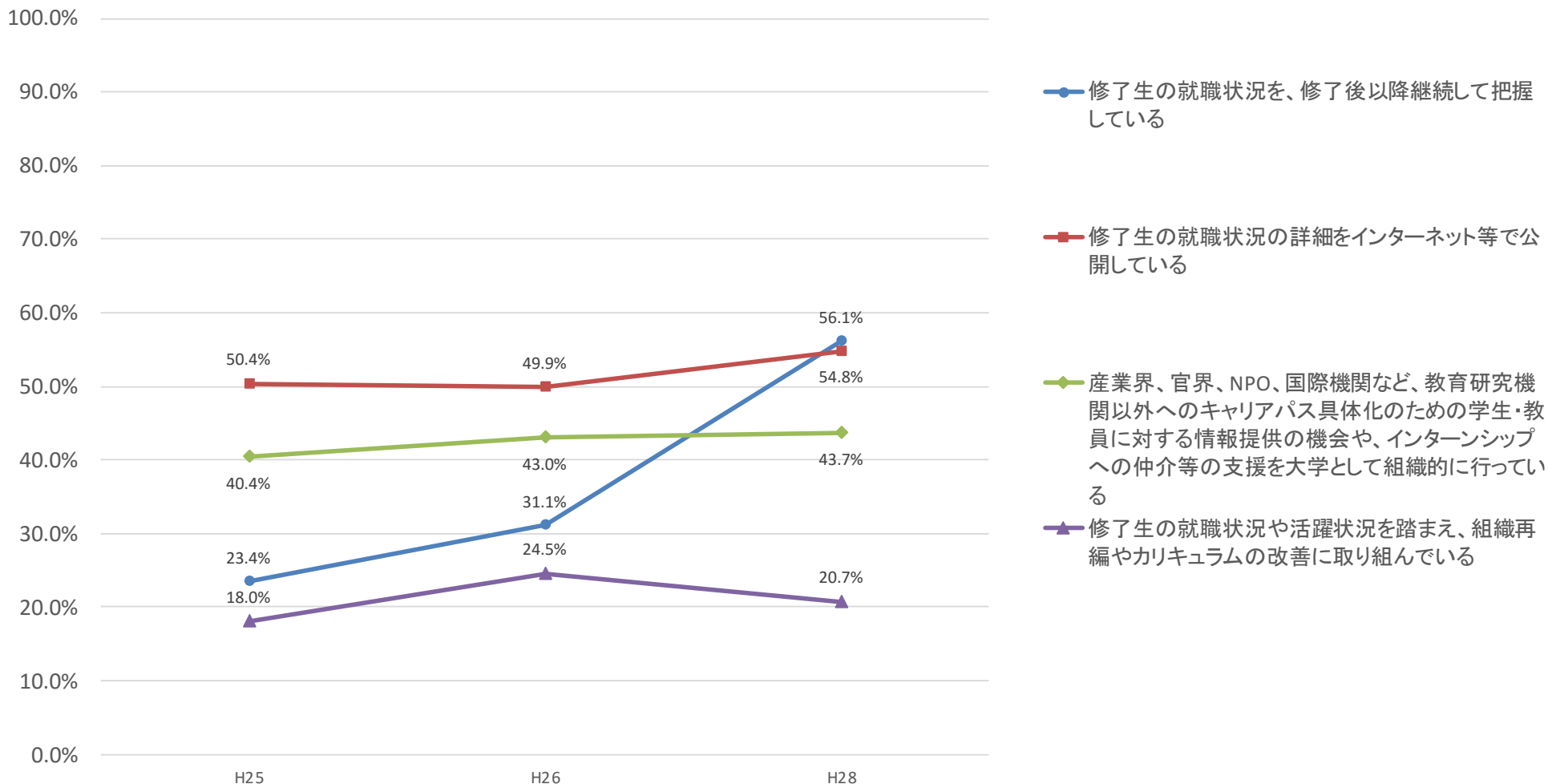
● 「人文科学」、「社会科学」分野の就職率が他の分野と比較して低い状況は、近年継続して見られる傾向。

※「教育」、「芸術」、「家政」、「その他」分野は修了者数が比較的少ないことから省略



## 多様なキャリアパスを確立するための取組「推移」

- 「修了生の就職状況を、修了後以降継続して把握している」、「修了生の就職状況の詳細を公表している」、「産業界、官界、NPO、国際機関など、教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のための学生・教員に対する情報提供の機会や、インターンシップへの仲介等の支援を大学として組織的に行っている」と回答した専攻・課程はそれぞれ約4～5割。
- 「修了生の就職状況や活躍状況を踏まえ、組織再編やカリキュラム改善に取り組んでいる」のは約2割にとどまる。

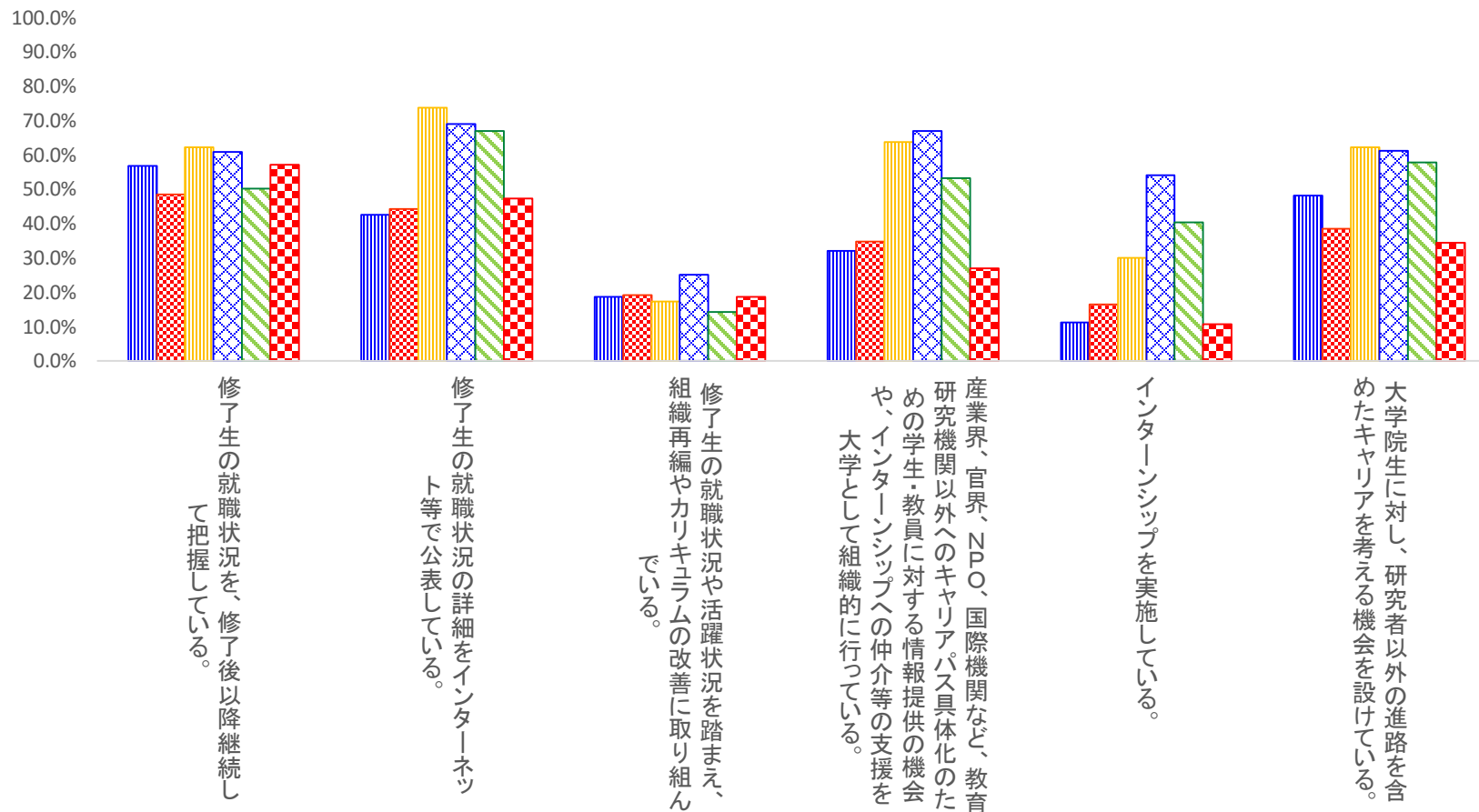


(出典：文部科学省委託調査「大学院における「第3次大学院教育振興施策要綱」等を踏まえた教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究 調査報告書」(平成30年5月 株式会社リベルタス・コンサルティング)



## ■ 多様なキャリアパスを確立するための取組「分野別」

- 「修了生の就職状況の詳細についてのインターネット等による公開」「産業界、官界、NPO、国際機関など、教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のための学生・教員に対する情報提供の機会や、インターンシップへの仲介等の支援の組織的な実施」は、理学・工学分野で実施率が高く、人文科学・社会科学・保健分野と開きがある。



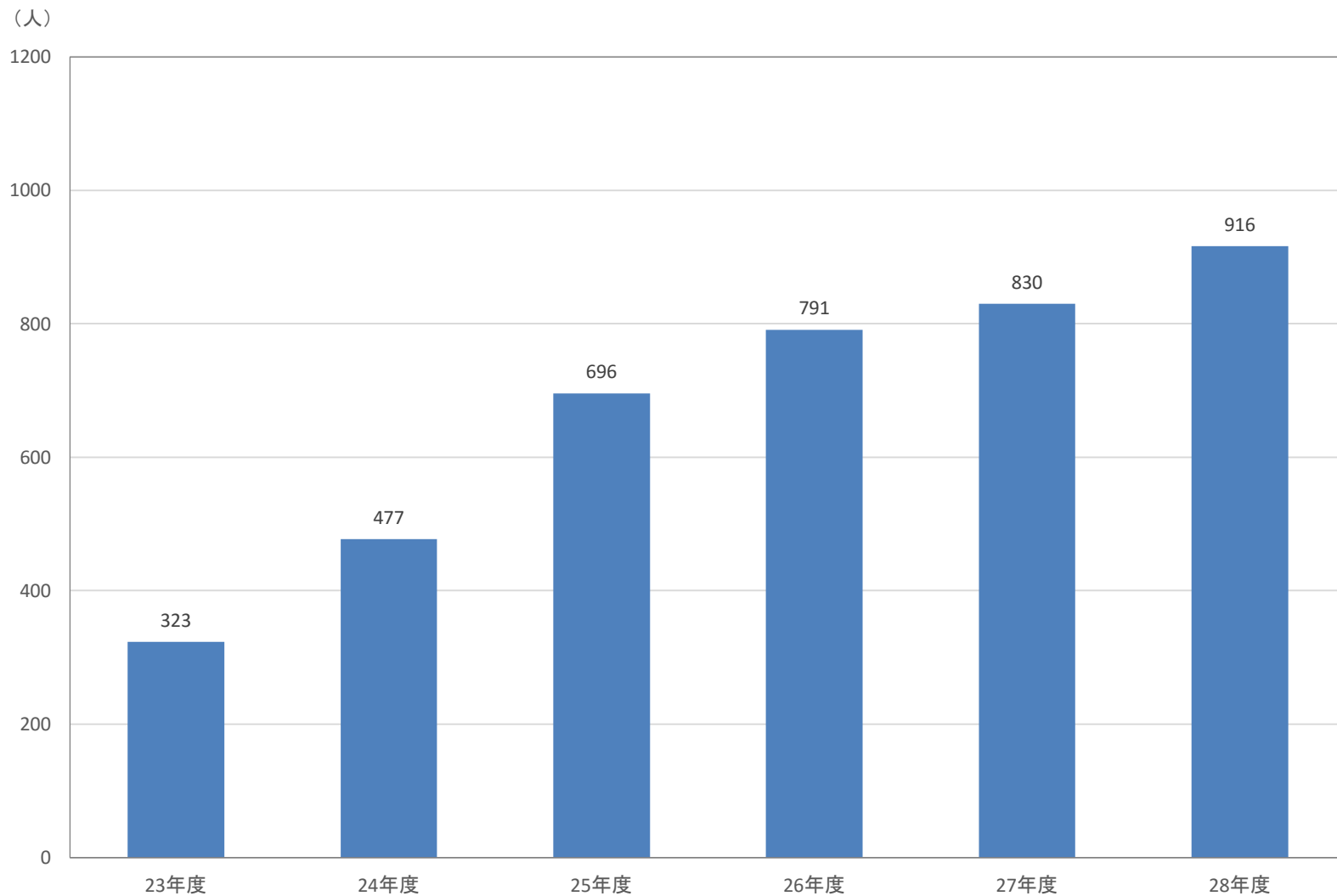
■ A人文科学 (n=957) ■ B社会科学 (n=1203) ■ C理学 (n=400) ■ D工学 (n=1338) ■ E農学 (n=287) ■ F保健 (n=752)

(注) 1 専攻・課程単位で調査  
2 各年度10月1日現在

出典: 文部科学省委託調査「大学院における「第3次大学院教育振興施策要綱」等を踏まえた教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究」(平成30年3月 リベルタス・コンサルティング)

## ■ URA配置人数

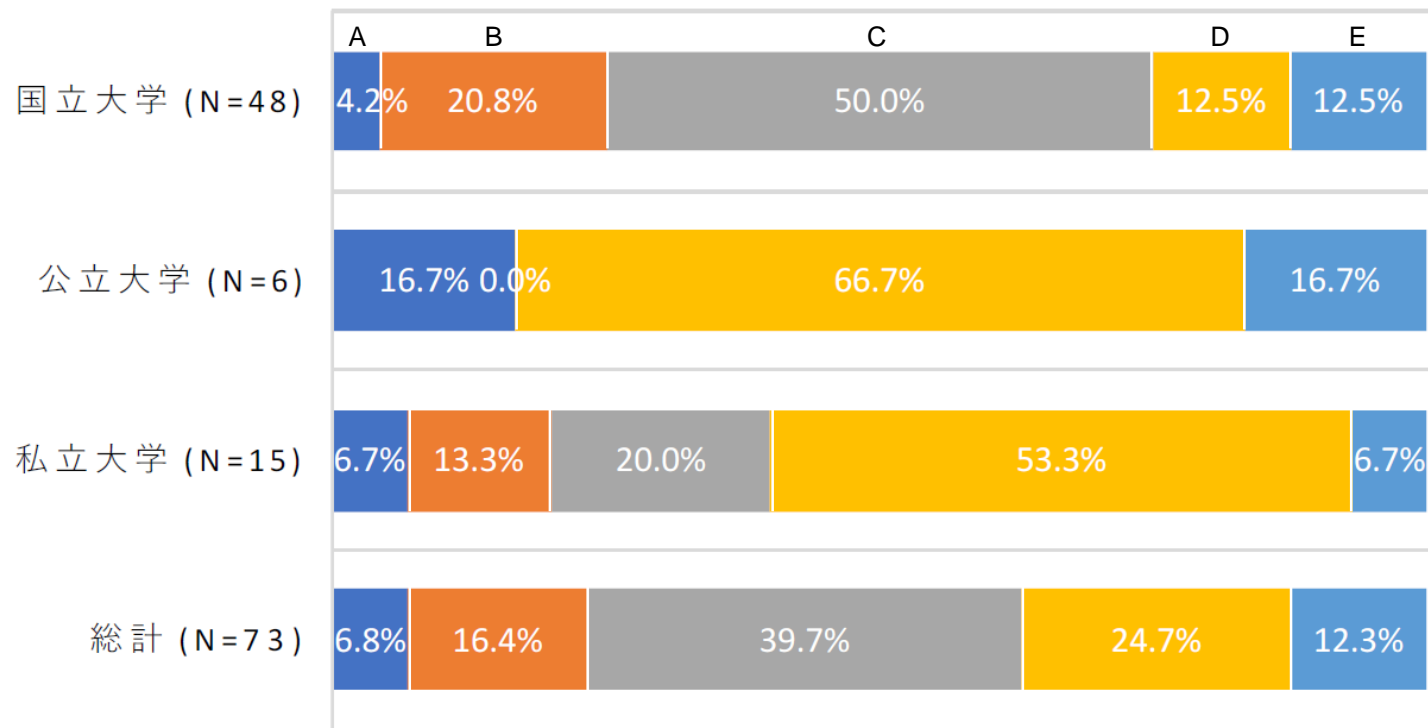
- 大学等における研究マネジメント人材(URA: University Research Administrator)配置人数は年々増加傾向にある。



出典: 文部科学省「平成28年度大学等における産学連携等実施状況について」(平成30年2月)

## ■ URAを採用する際に求める学位

- URA組織において、URAを採用する際に求める学位は、国立大学(50%)では、博士号取得者とする割合が最も大きい。



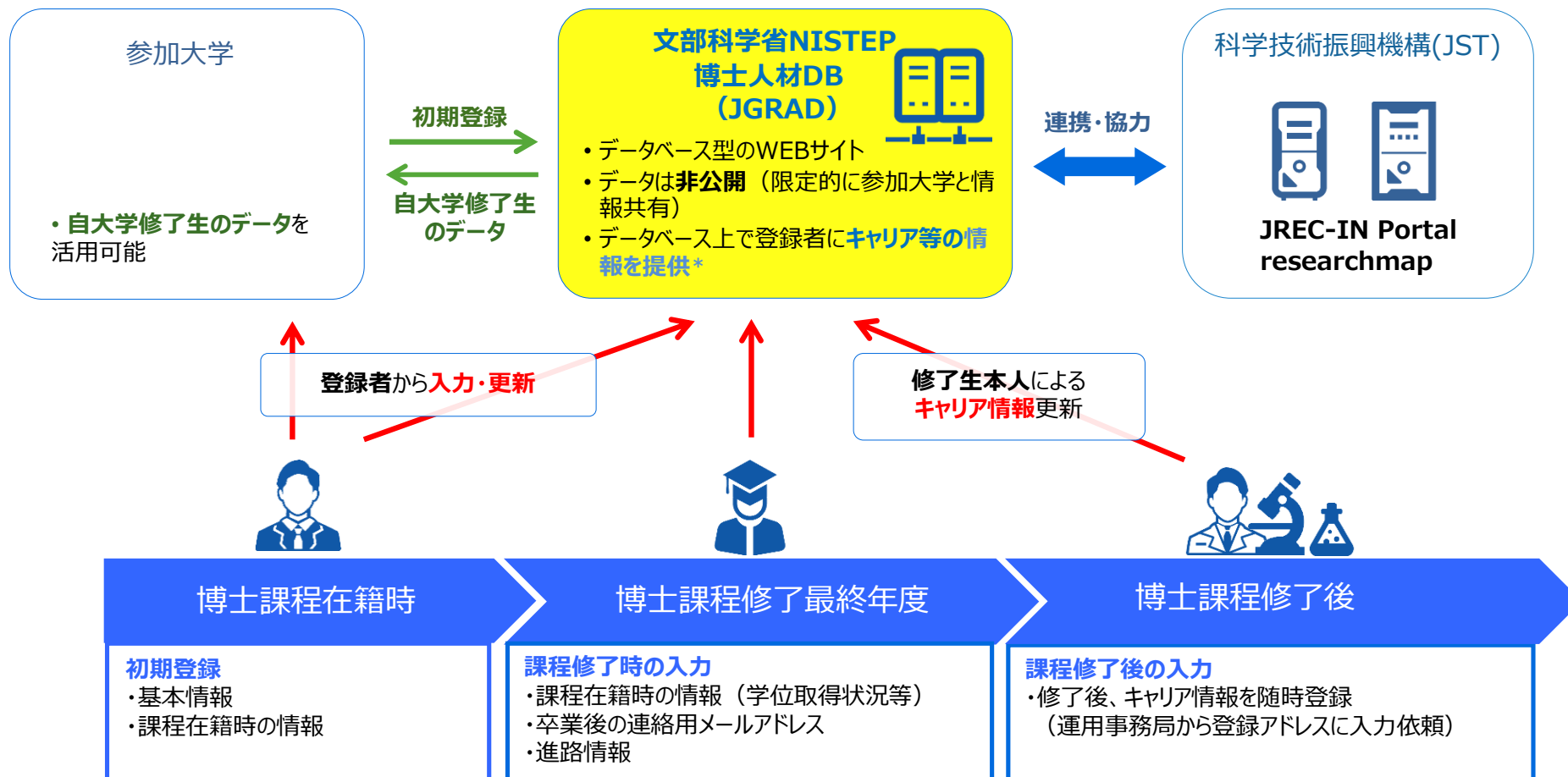
A ■ 学士まで B ■ 修士まで C ■ 博士まで D ■ 特に問わない E ■ その他

出典：文部科学省委託事業「リサーチ・アドミニストレーターの質保証に向けた調査分析 調査報告書」(平成30年3月 未来工学研究所)

## ②博士人材データベース(JGRAD)

# 博士人材データベース(JGRAD)の概要

●2014年度以降の博士課程修了者（年間約15,000人修了）を登録対象者とし、**修了者個人が自身の属性やキャリア情報を入力・更新する進路追跡システム**。日本語/英語での入力が可能

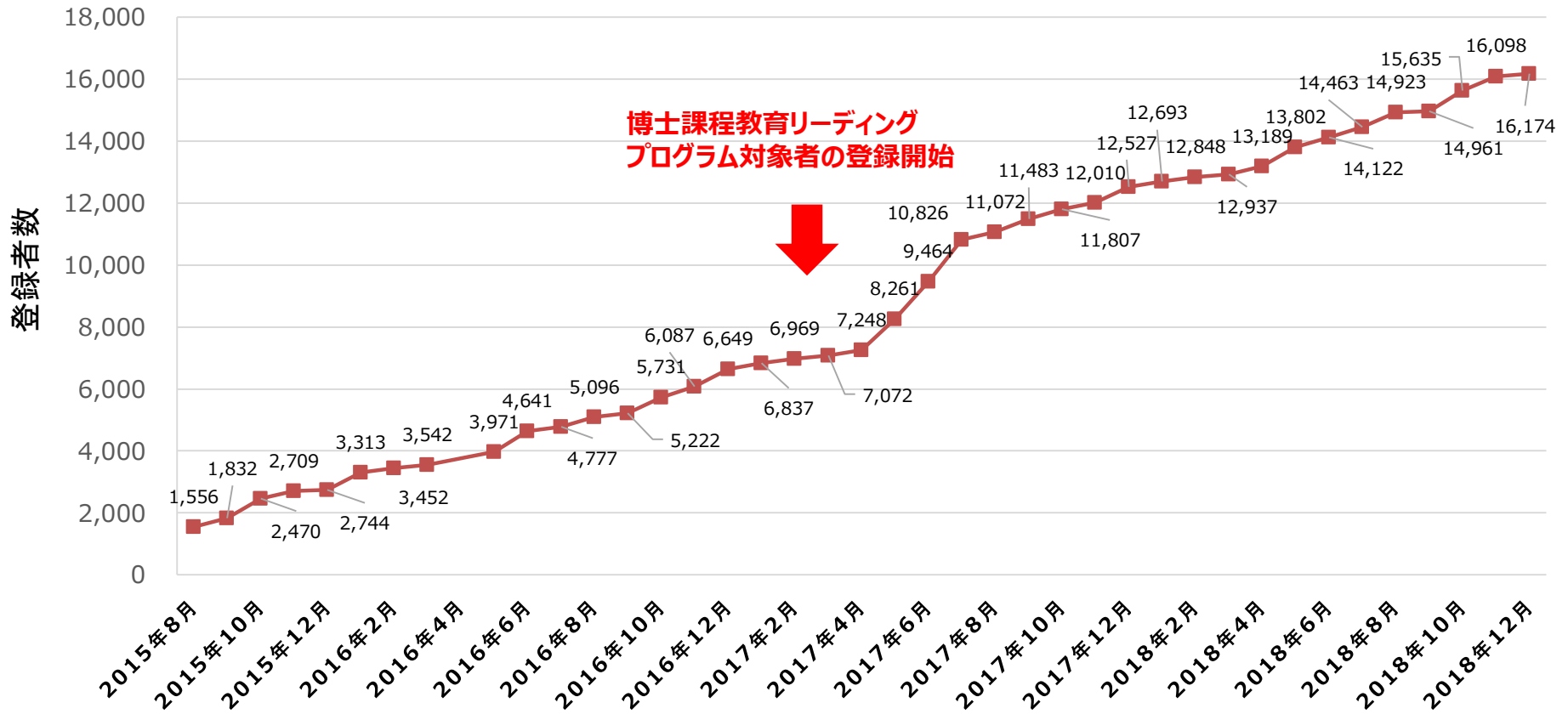


\*データベース上での登録者への情報提供について

- JREC-IN Portalの求人情報
- researchmapとの連携（2018年度実施予定）
- キャリア情報（ロールモデル）の収集と分類配信

# JGRAD登録者数の推移

- 2019年1月7日現在、登録者数**1万6千人**を突破

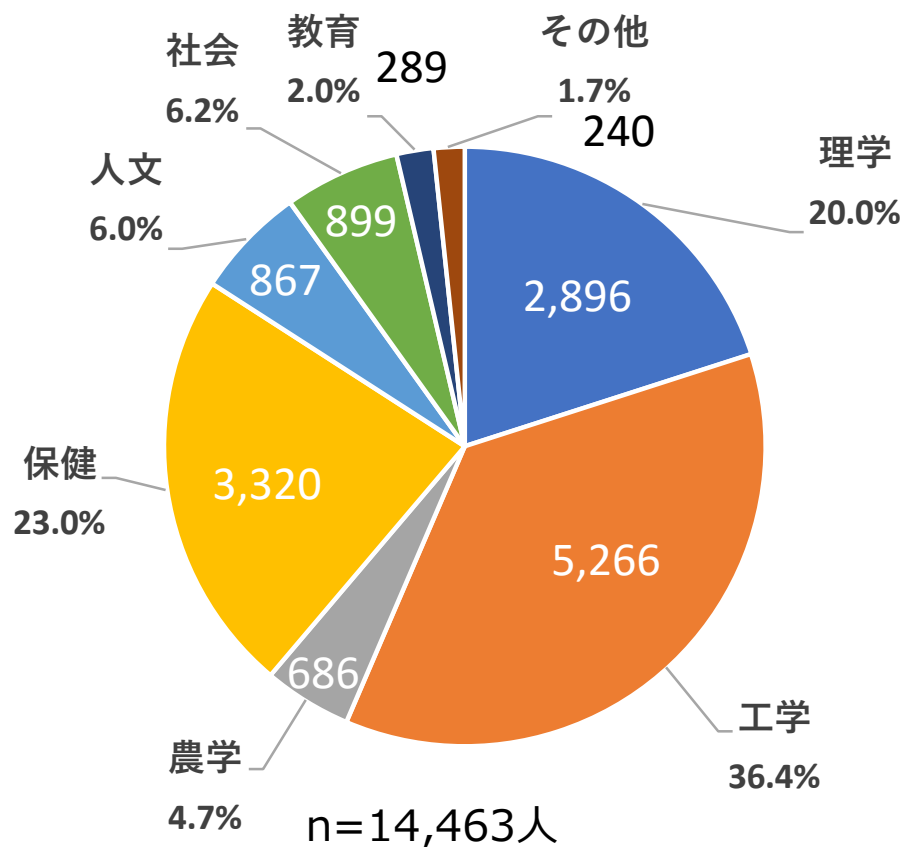


\* 末日までの登録者を集計

# JGRAD登録者の分野別分布と留学生の国別分布状況

- 2018年8月現在、理学、工学、農学、保健の自然科学系で84.1%を占める
- 留学生については、東アジア、東南アジアで74.8%、アジア全体で86.5%を占める

## JGRAD登録者の分野別分布状況



## 留学生の状況

